



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

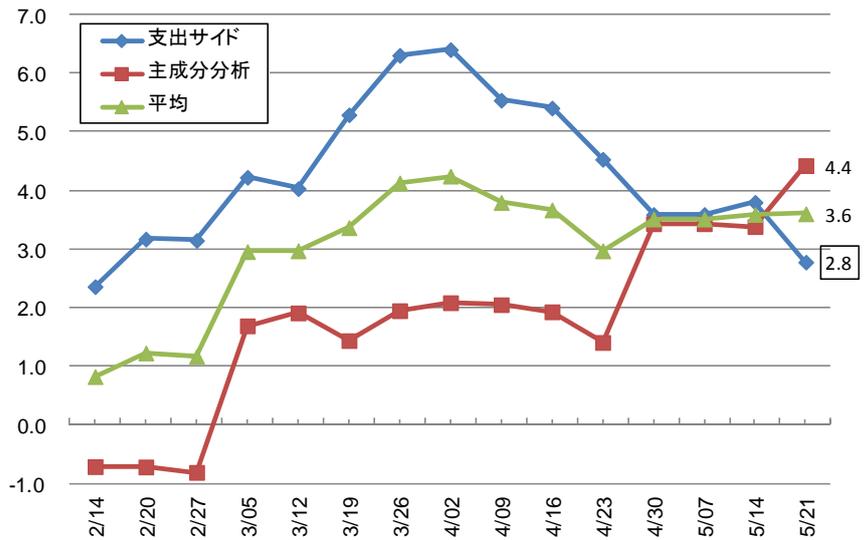
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年5月21日)

ポイント

- ▶1次速報値によれば、1-3月期実質GDP成長率は前期比年率+4.1%となり、市場コンセンサスを上回った。
- ▶同期の高成長は、好調な民間最終消費支出、復興需要の顕在化による公的固定資本形成の拡大、加えて純輸出の持ち直しに支えられた。
- ▶今回のCQMは過大予測となった。民間企業設備がGDP予測誤差の大部分を説明しているが、民間企業設備は1次、2次速報値で大幅に修正されることが多く、今後注意が必要。
- ▶1-3月期の高成長の持続性については疑問が残る。民間消費と公共投資は政策的要因に大きく支えられており、また純輸出についてもしばらくは高い伸びは期待しにくい。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を、内需が引き続き拡大するが、純輸出が再びマイナスに転じるため前期比年率+2.8%に減速すると予測する

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<4-6月期の実質GDPはプラス成長も減速へ>

先週(5/14-5/18)は、4月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、消費動向調査、3月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数、民間機械受注、情報サービス業売上高、建設総合統計が更新された。また17日に1-3月期GDP1次速報値が発表された。

GDP1次速報値によれば、1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.1%となった。3期連続のプラス成長となり、市場コンセンサス(ESPフォーキャスト5月調査: +3.5%)を上回った。1-3月期の高成長は、閏年効果もあるが好調な民間最終消費支出、復興需要の顕在化による公的固定資本形成の拡大、加えて純輸出の持ち直しに支えられた。

1-3月期の予測は過大予測となり(誤差率0.4%)、コンセンサス予測の成長率レンジ(+1.9%~+7.9%)の上限に近い値となった。GDP項目の予測パフォーマンスを見れば、実質民間企業設備の予測誤差が実質GDP予測誤差の大部分を説明している。ただ、民間企業設備の1次速報値の結果は2次速報値で大幅に修正されることが多く、今後注意が必要である。

1-3月期の高成長の持続性については疑問が残る。民間消費と公共投資は政策的要因(エコカー減税や復興需要)に大きく支えられており、また純輸出についてもしばらくは高い伸びは期待しにくいためである。

今週(5/21)のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需が引き続き拡大するが、純輸出が再びマイナスに転じるため前期比年率+2.8%に減速すると予測する。先週の予測(+3.8%)から下方修正された。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550